長崎青年協会

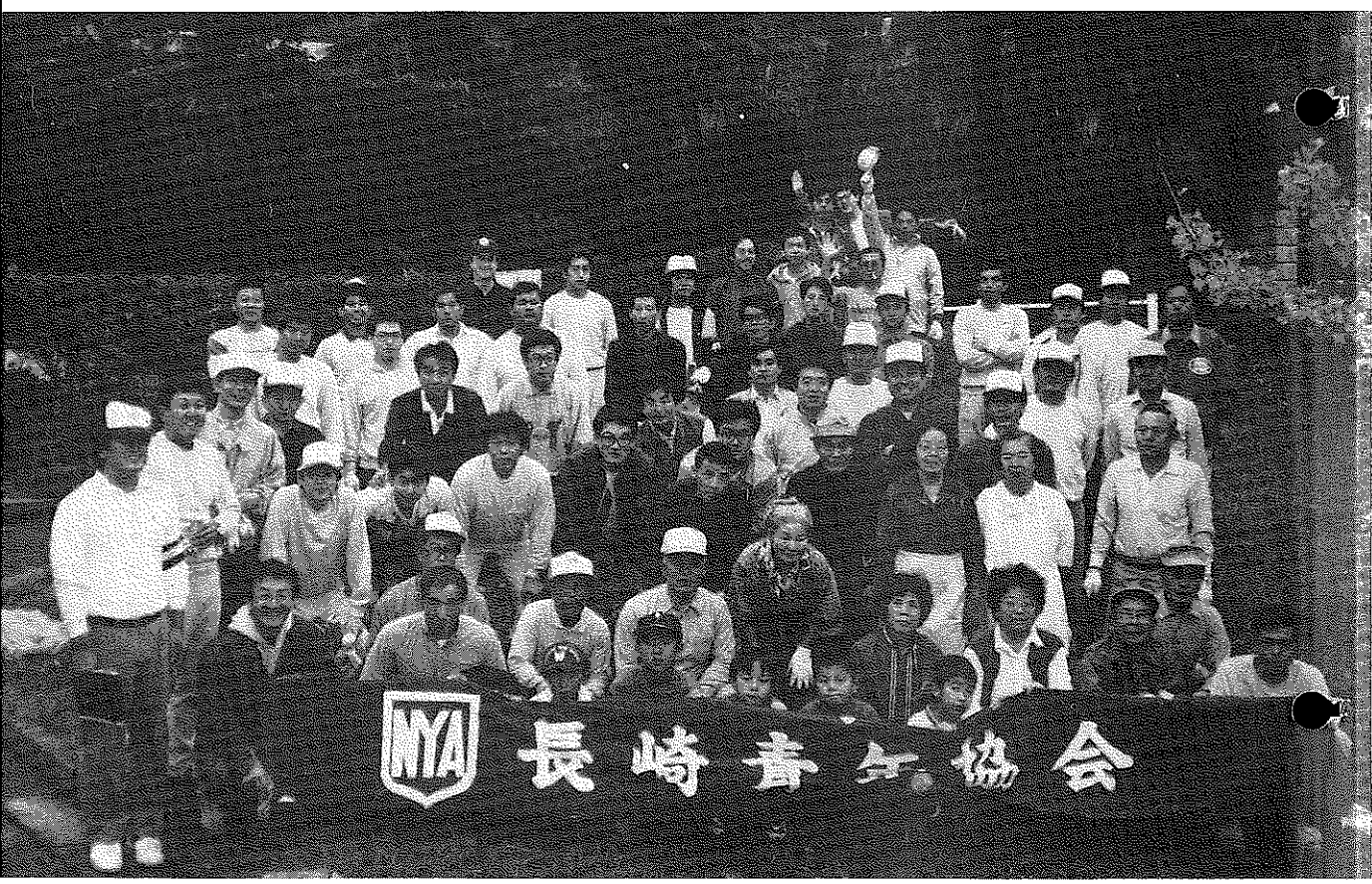
NAGASAKI
YOUNG GENERATION
ASSOCIATION

MONTHLY
1987 NOVEMBER
No. 101

発行　長崎市魚の町7-7　(社) 長崎青年協会　会長　森山　茂　編集　広報委員長　浜本勝馬

長崎青年協会憲章

我々は、会員の団結と相互扶助の精神の基に、自己の建設と会員の親睦を図り、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。



十一月の行事

16日　理事会
20日　第二回新人ミニ研修
　　七時　自治会館
24日　臨時総会

昭和62年度 臨時総会のお知らせ

記

日時　11月24日（火）
　　午後6時30分

場所　長崎東映ホテル
　　（旧東映イン長崎）

議題　①　昭和62年度補正予算承認の件
　　②　次年度会長選出の件

十月例会

日時　昭和62年10月23日
場所　東映イン長崎
もちろん、我々の主旨に賛同し理解していただいた各家族の皆さんやOBの皆様方にも心より感謝いたしたいと思います。先日事務局に参りましたら三施設の園児たちよりお礼の手紙が届いておりました。そのあどけない文章の中に当日の楽しかった気持がこめられておりまして胸が熱くなる思いがいたしました。四日間のおくんちパークも無事終了いたしましたが、まだまだ改良すべき点も多々あるようでございますので来年からの反省材料として、すばらしい市民のいこいの場としていきたいと思います。さて十一月三日には恒例の文化財清掃とソフトボール大会、十二月には女の都老人ホームのもちつきと忘年会と続くわけですが、今年も最後まで、青年協会パワーを発揮されてがんばっていただきたいと思います。

森山茂会長挨拶

朝夕はめっきりすごしやすくなりましたが、読書やスポーツ等に例えられますように非常に集中できる季節になりました。皆様も先日からのおくんちパークの期間中は仕事をかなり犠牲にしていただきましたので、そのぶんとりもどす意味でも各自の仕事にも集中していただきたいと思います。そのおくんちパークでございますが、十月の七、八、九の三日間はもちろんのこと今年は前夜祭も含めますと計四日間、皆様全員のご協力によりまして大成功のうちに終了いたしましたことを心より感謝いたしたいと思います。又会員の皆さんはそのトレーナの超特大サイズがピチピチフィット。

★**金子寿英君・栗原耕一君**
黒瀬勝幸君・森山　茂君
船越正治君
ソフトボールドラフト会議に於いて第一位指名。

★**吉尾富輿志君**
くんち打上げ当日結婚。

★**尾上賢二君**
男子誕生おめでとう。

★**船津信三郎君**
次女誕生おめでとう。

★**金田芳裕君**
ゴルフコンペ優勝！なんとその翌日の½長男誕生！

★**松本直行君**
マージャンでテンホ！翌日の五島出張は無事でした。

★**森山　茂君・松本義輝君**
田代博昭君
松本直行君とマージャンをしたメンバーおめでとう。

★**嵩下恭一君・渡辺芳信君**
……。おめでとう。

★**松尾秀二君**
1%おくんちが終った後、酒を飲み過ぎて目が覚めたら公園で寝ていた。

理事会報告

おくんちパークが無事終了致しました。皆さん大変お疲れ様でした。

委員会報告

〔**総務委員会**〕
諸規則の第13条に退会宣告を追加しました。内容としては退会を勧告し本人から意義申し立てがない場合は理事会の承認をもって会長が退会を宣告する事が出来る。

〔**会員交流委員会**〕
先日ソフトボールのドラフト会議が行なわれました。文化財清掃の後、13時から試合開始です。

〔**会員開発委員会**〕
総務委員会の鎌田発好君と研修委員会の友永優二君が先日の理事会で退会を認められました。又会員開発の飯島良明君が休会致します。

〔**研修委員会**〕
十一月二十日にミニ研修を予定しております。場所は、消防所の下の自治会館に於いてPM.七時からです。対象者は今年度四月以降の新入会員で、前回のミニ研修に出席出来なかった人も出席の事。

〔**事業委員会**〕
十一月三日の文化財清掃の時のマイカーは禁止します。但し遠方の方は郵便貯金局をお借りしております。

〔**広報委員会**〕
おくんちの時の写真を事務局に貼り出しますので入用の方は申し出て下さい。百円で販売致します。

よろこび

★**金子寿英君・松本義輝君**
おくんちパーク実行委員長、御苦労様でした。

★**大平和男君・松川信司君**
おくんちパーク電気工事お疲れ様でした。

★**池田郁志君**
ビラ配り中警察に注意される。ドジ

★**沼里　勉君**
おくんちパーク用トレーナ製作おめでとう。

★**山下泰生君**
トレーナの名デザイナー。

★**福田増幸君**

講師講演要旨

これからの営業を考える
ビール営業30年の体験から

アサヒビール九州支店次長 諸岡 和彦 氏

流れを変える発想の転換

2月14日はバレンタインデーです。デパートなどでは特設売場を設けキャンペーンを行います。そして売れ残った品は14日の夜メーカーに返品されます。この事は特に変った現象ではありませんが、福岡市の或る個人商店1軒だけがこのバレンタインデーを2月15日迄行ったのです「遅くなってごめんなさい。」と店頭に大きな看板を揚げ、チョコレートを販売したのです。買いに来たOLに聞いてみると「あの人にあげるの忘れたわ」とか「あの課長さん、あまり好きじゃないけどあげておかないといじわるされそうだわ」等あるものなんです。チョコレートには「遅くなってごめんなさい」と書いた可愛いシールが貼ってあり、シールまで作ったところを見ると、思いつきの企画ではなく、かなり以前から準備されたものと思われます。ところが売れるわ、売れるわ、14日迄の売上げと変わらない程売れたんです。これは20歳の若い女性のアイデアだそうです。私が申し上げたいのは、バレンタインデーの発想、足をふくおしぼりの発想、交通信号の発想、はし箱の発想これが皆さんがよく言われている発想の転換の原点ではないかと思うわけです。よく〝発想の転換をしよう〟というポスターを街で見かけますが、意外や意外その様に皆さん方の身近に問題が山積しているのではないかな？ということを例を持って提案したわけです。

人は形を求め、形は人の心を変える

以前、東京に出張した時、地下鉄の電車の中で「人は形を求め形は人の心を変える。」という広告が目につきました。さて、皆さん！この広告はどのような商売のものと思われますか。これは佛具屋さんであります。私はこの広告の意味について次のような解釈をしています。私が家を新築した時、どうせ借金するならの際と思って佛壇を買ったんです。いまだかって一度も拝んだ事のなかった私が、毎朝手を合わせて拝む様になりました。信仰心が出てきたからなのか、折角買ったのだから勿体ないとの考えかは別として、とにかく拝むようになったことは事実です。佛壇という形を求めることによって拝む心が出来た。すなわち、形が人の心を変えたわけです。私は、これをいろんな事に置き替えてあてはめてみるのです。例えば、青少年の不良化は身だしなみとか服装の乱れから始まります。又、人に不快感を与える様な服装をした営業マンで好成績を残す人はいません。

6つの「り」

①いたわり、②ゆとり、③思いやり、④心配り、⑤こだわり、⑥誇り、であります。酒屋さんの多くは、夫婦或いは息子さん又は店員さんを含めた少人数での経営が殆んどであります。従ってお互いの「いたわり」の心がなければなりません。また、表通りに面した2軒の酒屋で常連の客がたまたま他の酒屋で酒を買ったからといっても立腹するのでなく、自分の努力が足りないんだと、言い聞かせるぐらいの「ゆとり」があって欲しいと思います。また皆さんもそうですが、生活必需品は大体地元の店を利用されていますね。自分の商売も地元の人に助けてもらっている事を考えて、出来るだけ地元で買物をし、こちらも買って返すという「思いやり」をもつ事が大切です。また酒屋さんは卸屋さんから仕入れるわけですが〝買ってやる〟〝売ってやる〟という発想ではもう商売は出来ません。メーカーさん、卸屋さんが納めてくれるからこそ居ながらにして商売が出来るのだという感謝の気持ちで、仕入れ先を大切にする「心配り」を持っていただきたいと思います。また特定商品、特定銘柄に「こだわる」ことです。たくさんある商品の中で、自分は何に力を入れようとしているのか。ワイ

ンコーナー、或いは焼酎コーナー、そういう特徴にこだわるべきではないでしょうか。銘柄もそうです。この商品を売ろうという「こだわり」。こだわるという事は自分で売り方を考える事です。売れるものを売ったらよいというのではその店の発展はありません。また或る父親から「来春大学を卒業する息子が酒屋のあとを継がない」ということで相談を受けましたが、私は「親として尊敬される父親に、そして自分の選んだ仕事に「誇り」を持つならば息子さんは必ずあとを継ぐはずです。」と申しております。

では、最後にイギリス人の詩を紹介しましょう。

「人生はうつろいやすく、青春もまた束の間に過ぎてゆく、今のうちに楽しみたまえ、ビールの泡の消えぬ間に。」

いかがでしょうか……。

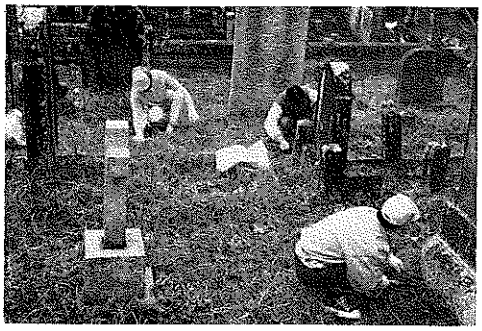
文化財清掃

去る11月3日、文化の日に、恒例の文化遺産の清掃ということで、坂本町の外人墓地の大清掃が行なわれました。例年、文化の日は雨は降らないとの言い伝えがあるのですが、この日は期待を裏切って朝からどんより曇り空。午前9時集合のところ、9時までに集まったのはわずか数名。どうなることかなーと思いきや次々に眠たい眼をこすりながら集まり、結局約60名の大所帯となりました。慣れない鎌や竹ぼうきで大奮闘の末、翌日腰痛の為に仕事に十分精を出せなかった人が数多くいたとか――？

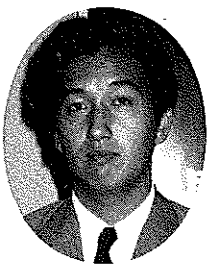
小雨混じりのこの日、雑草の生い茂るこの担当地域を目前に、今日一日で本当に終わるのかなーが第一印象でした。しかし、和の力というものは偉大なものです。最初一人でやっていたこの地も、二人、二人と助っ人が増える度に、回りの雑草も次々刈られ、あっという間に美しい外人墓地へと逆戻り!!

又、忘れてならないのが近隣地区の方々の手助けとブライアン氏の特別参加です。本当にお疲れ様でした。

エキゾチック長崎、観光長崎の象徴たる外人墓地、いつまでも美しくあって欲しいという気持ちは皆同じです。こういう行事を通して社会に貢献できるということは本当に素晴らしいことだと感じました。



新人紹介



伊藤克樹 君

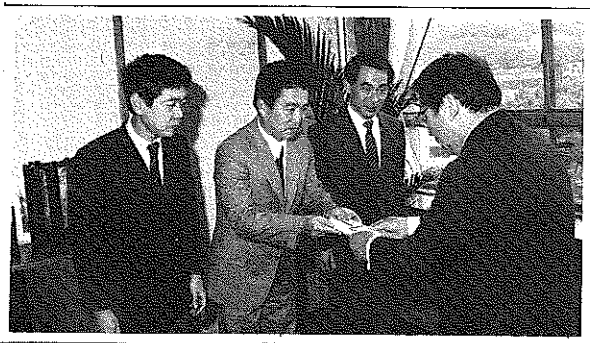
勤務先 S35年12月29日生
東京海上
火災保険㈱

現住所 古川町4－8
電話27－0007

配属 大宮町14－23
電話27－0007

紹介者 財務委員会
小川一朗君

おくんちパーク益金の一部贈る

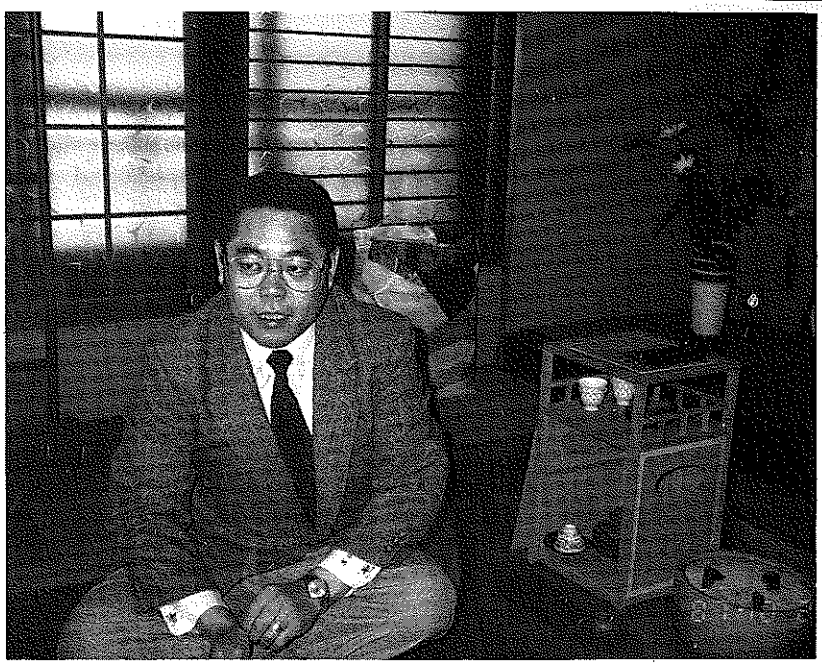


十月三十日、長崎くんち期間中に江戸町公園で開いた「おくんちパーク」の益金の一部、五万円を長崎市十人町、社会福祉施設「みのり園」(嶺益枝園長、八十人)に贈りました。

市役所で森山会長が「わずかですが、何かに役立てて下さい」と嶺園長に寄付金を手渡しました。

OB訪問

インタビュアー
広報委員会　城谷富好



平野晴一先輩

昭和五十七年度卒

勤務先
京染呉服平野屋代表者

・城谷　今日は！まず平野先輩の誕生日はいつですか。

・平野　昭和十七年七月二十二日です。今、四十五歳になります。

・城谷　生まれたところはこちらですか。

・平野　ええ。生まれも育ちもずっとここですよ。

・城谷　小学校は磨屋ですか。

・平野　そうです。目の前に学校があるから始業のベルが鳴ってから登校してました。一番近い人がいつも遅刻してました。（笑）

・城谷　御家族について話して下さい。

・平野　私は二十九歳で結婚して、現在、子供が中学三年と小学五年の男の子二人です。長男はいよいよ来年高校受験です。

・城谷　大変ですね。次にお仕事について教えて下さい。

・平野　呉服といっても、私の店は特殊な京染呉服ですから、専門的な知識と経験が必要です。普通の反物と違うので、カタログの段階でお客様にアドバイスしなければいけませんから、非常に難しい仕事です。

私は二代目になるのですが、両親を早く亡くしたので大変苦労しました。

・城谷　趣味についてお聞きしたいのですが。

・平野　一番の趣味は麻雀です。月に十日ぐらいしますね。

・城谷　私も可愛がってもらいました。（笑）他に何かありますか。

・平野　ゴルフなどスポーツ全般とお謡です。

・城谷　非常に多趣味でいらっしゃいますね。

次に協会の思い出についてお聞かせ下さい。

・平野　私は昭和五十年、第七年度の会長をしましたが、会長をして良かった事は、人の上に立つことはそれだけ自分で勉強しなければいけないし、現在にそれが結びついています。今、別の会の会長をしていますが、青年協会での経験が非常に役立っていますね。

団体活動の中でのリーダーシップをとるということで、青年協会は大変勉強になりました。

・城谷　最後に新入会員に先輩から良きアドバイスをお願いします。

・平野　最初は理屈よりもまず参加することですね。私は青年協会に在籍中、出席率が一番良かったと思います。新入会員は、入会して一年はその会に黙ってついていく。一年後に意見するようになればいいと思います。何の組織でも、内容がわからないうちに不平不満を言ってはいけないと思います。参加した以上は、その中に自分からはいっていき、そこでその会の良さを自分で捜す。とに角、事業、例会において積極参加することです。

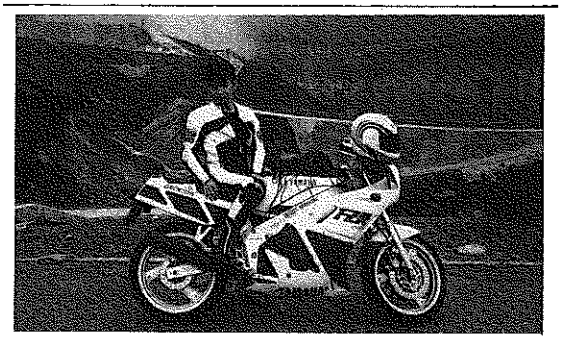
・城谷　今日は本当にお忙しい中どうも有難うございました。

今後とも宜しく御助言、御指導下さい。

風を切るエクスタシー

事業委員会　春田芳宏

今日は、事業委員会の春田です。今回、我らが青年協会広報誌に載せていただけるとの事でペンを執ることになりました。今、私はオートバイに夢中になっています。あの何とも言えないエキゾーストと、風との一体感はもうたまりません。休日はオートバイに跨がって雲仙や阿蘇に出かけています。写真は九月に阿蘇にツーリングに行った時のものですが、もうサイコーでした。広がる青空の中、雄大な草千里を横目にすれちがうライダーとピースサインを交しながら風を切って駆けるなんざぁ～もうエクスタシー以外の何ものでもございません。こんな私と皆さんも一度走りに行きませんか！来年あたりもし良かったらツーリング同好会でも作りたいと思いますのでオートバイを愛する人が居らしゃいましたら一緒に頑張りましょう。青年協会の皆さん。オートバイに乗ってみて下さい。きっと素晴しい生物であると感じるはずです。

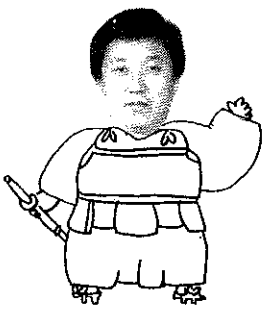


おれは男だ！

研修委員会　桑田敬悟

「人生、如何なる時も青春」とおっしゃる方もいらっしゃる様ですが、私にとりまして、青春とは、やはりスポーツに明け暮れました中学・高校時代ではなかったかと思うのです。幼い頃から体を動かす事が好きな私は、中学時代はサッカー部、高校に入りましてからは剣道部に所属しました。この剣道に少しでも携わった事は、私にとてもプラスになったように思います。試合において、私よりも技も優れ、体格も勝ってます相手に当たったとしましても、それこそ「なにくそ、負けるものか」との気力で勝つ事ができたのです。これは大きな私の自信となりました。また、人間として一番大切な「礼儀」を教わり、相手の目の動きを読むだけで、体の動きを察しなければならないスポーツであるため、少々洞察力も身につける事ができたのでは、と思うのです。

今は、なかなか剣道をするチャンスがない日々の生活ですが、機会があれば今一度高校時代に戻って、あの鋭い目線を復活させたいと思っています。



青春まっさかり

編集後記

月日が経つのも早いもので、今年も残すところあとわずかとなりました。今年一年を振り返るのはまだ早いと思いますが、やはり印象に残る事と言えば「海のフェスティバル」「おくんちパーク」があげられます。両事業共、青年協会パワーを充分に発揮できたのではと思います。

さて、12月の忘年懇親会で行なわれます委員会対抗かくし芸大会の出し物は、決まったでしょうか?。我広報委員会もまだはっきりとは決まっていませんが、「芸の達人」が数名おられますので、必ずや優勝するのではと今から楽しみにしております。

11月号の編集も終わり、ホッとしています。今後共皆様に次号を楽しみにされるような広報誌作りに、メンバー一丸となって努力していきたいと思いますのでよろしくお願い致します。